

## 日本学術会議

### 日本学術会議の第三者評価機能に関する検討委員会（第4回）

日 時：平成26年1月9日（木） 13:05～15:10

会 場：日本学術会議6階 6-C（2）

出席委員：岡田委員長、生源寺幹事、三木幹事、小林委員、友枝委員、天野委員、  
岡本委員、広渡委員、林委員、計9名

オブザーバー：家副会長

事務局：盛田参事官、佐藤審議専門職、寺島事務職員、（白村学術調査員－録音筆耕）

#### 配布資料

- 資料1 日本学術会議の第三者評価機能に関する検討委員会第3回議事要旨（案）
- 資料2-1 研究開発プログラム評価の現状と日本学術会議が関与しうる可能性
- 資料2-2 米国ナショナルアカデミー年次活動報告書からの抜粋  
（米国議会からの要求により実施している評価活動の一覧）
- 資料3 日本学術会議の第三者評価機能に関する検討委員会第4回論点整理メモ
- 資料4 日本学術会議の第三者評価機能に関する検討委員会報告書目次（案）
- 参考 日本学術会議の第三者評価機能に関する検討委員会委員名簿

#### 議事

冒頭、岡田委員長より資料3、4についての説明があった。

1. プログラム評価の方法について（林委員からの報告・説明の後、関連事項の質疑応答を行った。

○「評価」というものをめぐって、学術会議がどのような関わりを持ちうるのかを検討するため、国の科学技術政策について資料2-1と2-2を参照しつつ説明を行う。

○資料2-1中に「プログラム評価ではプログラムの運営や、プログラムによる効果」と記されていることに、その具体例を挙げるよう求める。

○上記質問に関して、リーディング大学院やGCOEプログラムなどの事業を挙げ、その制度の運営や効果の視点を持つことが重要となってくると述べる。

○学術会議に評価の依頼をしてくる外部組織があるのかとの質問。

○府省の審議会での評価は第三者性が低いことから依頼の可能性は今後あるだろうと述べる。

○民間からの評価依頼は需要としてあるかもしれないが、その場合には学術会議の会則改正が必要になるだろうとする。質問として1. 評価の依頼はどの程度あるのか、2. 学術会議会則の改正はありうる議論なのか、3. マンパワーや予算（現在、評価に対する

報酬を学術会議は会則上受け取ることはできない)についてはどのような想定になるのか等を挙げた。

○過去に府省からの審議依頼を受けて学術会議が評価を実施した例はあると述べる。

○今、現実的になし得ることとしては、民間レベルでなされるプロジェクト等に対して報告・提言をしていく方向性を探るか、もしくは予算等の問題点を踏まえつつ学術会議の将来像を提言する、の2点があるだろうと述べる。

○従来、学術会議が担ってきたのは助言・提言活動であったが、この活動は必然的に評価活動も含むものであると理解する。この「評価」というモメントを独自化するというのは、従来の助言・提言活動と並ぶ独自の活動として位置づけることを意味する。独自化に際しての意味付けや浮上する問題について検討する必要があるとする。

○広渡委員の発言に関連して、助言・提言に比して評価というのは担う責務の重さが違うことが指摘された。学術会議が評価活動をするためには、現体制を変える必要があるのだろうことも併せて述べる。

○学術会議の機能強化に賛同はするものの、その行く先にも注意を向ける必要があると述べる。

○この委員会が取りまとめる報告書を参考資料とし、幹事会等で議論を詰めて頂く、ということもありうるのではないかと述べる。

○一般に従来の活動の枠内で何かを行うというのは改革とは呼ばない、とした上で、まず、ルールを変えることから始まるという方法論もあると述べる。

## 2. 今後の審議の進め方について

上記学術会議の評価機能をめぐる議論を踏まえて、議事は資料4を参考に報告書作成関連に移った。

○報告書の題目「日本学術会議の評価・提言機能について」は、学術会議が評価活動に今後コミットしていくという意味を含めると同時に、評価機能を浮かび上がらせるために「・」を削除するのはどうか、と岡田委員長から出席した委員に質問が投げかけられた。

○この点について委員会では活発な議論がなされ、最終的に題目は「日本学術会議の評価・報告機能について」となった。また、副題の挿入については検討したい旨が岡田委員長より述べられた。

○岡田委員長より報告書の担当箇所を書き始めるよう、各委員に対して依頼があった。

以下、目次・事項ごとの分担予定

1) はじめにー岡田委員長

2) 日本学術会議が実施してきた評価・提言、委員の推薦依頼の事例について

・科学技術基本計画における重要課題に関する評価・提言ー広渡委員

・外部機関より委員の推薦依頼ー生源寺委員（事務局で資料を整理する）

3) 日本学術会議の評価・提言機能の在り方

- ・第4期科学技術基本計画のレビューと第5期に向けての提言－笠木委員
- ・対象となる評価・提言機能－林委員

\*参考

- ・第三者評価について

3. その他

○第5回会議は平成26年2月14日（金）15時から17時に開催し、第6回は3月5日（水）13時から15時に開催することが決定した。